

平成27年度  
全国学力・学習状況調査の結果と分析

長門市教育委員会学校教育課

## グラフの見方

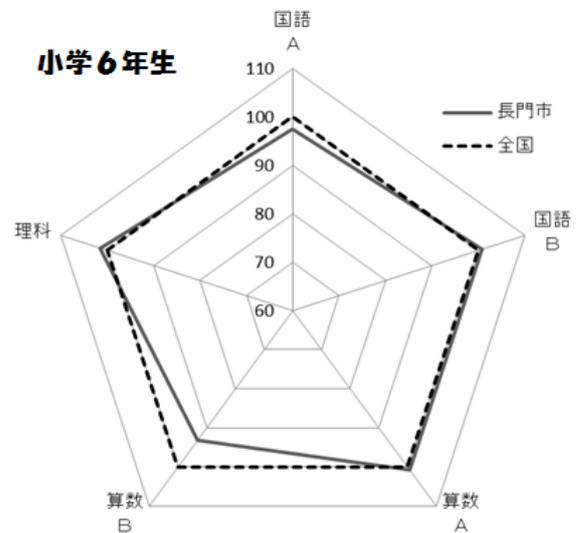
- 調査対象は、小学6年生と中学3年生で、平成27年4月に実施。
- 学力調査は、全国平均正答率を100としたときの長門市の平均正答率を示している。(100より外側が全国平均以上となる)
- 児童生徒アンケートは「当てはまる」と答えた児童生徒の%を示す。  
※印がついている項目のみ「どちらかといえば当てはまるを含む
- 点線は全国、実線は長門市の結果を示す。

### 1 学力調査の結果 (○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点)

#### (1) 小学校

国語Bと算数Aと理科が全国平均をやや上回っているが、国語Aと算数Bが全国下回っている。

特に、算数Bは2年続けて全国平均を大きく下回っている。



#### 【国語】

- 漢字を正しく読む。●漢字を正しく書く。
- 主語と述語との照応関係を捉える。
- 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える。
- 目的や意図に応じて内容を整理したり文章と図とを関連付けたりしながら書く。

#### 【算数】

- 四則計算をする。●分数の計算をする。
- 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる。
- 単位量当たりの大きさや割合を用いて目的に応じた答えを求めることができる。
- 概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、正しい結果になる理由を記述する。

#### 【理科】

- メダカの雌雄を見分ける方法を理解している。
- 振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適応できる。
- 磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適応できる。
- メスシリンダーや顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている。
- 植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用したり、グラフを基に考察したりして、その内容を記述できる。

## (2) 中学校

- 全教科・全分野で全国平均を上回っている。
- 数学の学力が小6年時と比較して大きく伸びている。

### 【国語】

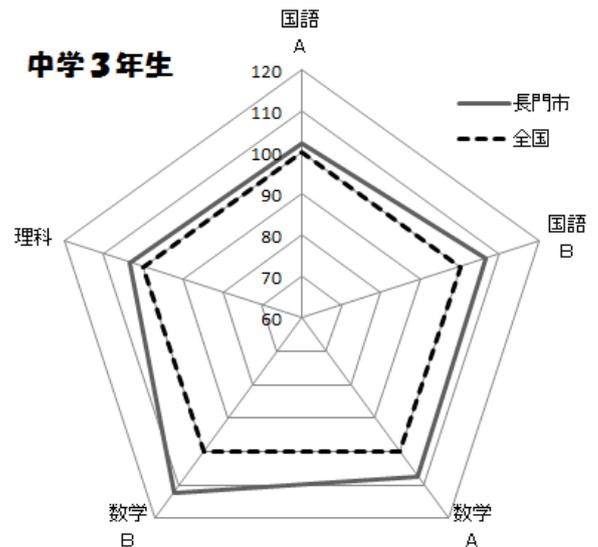
- 相手の反応を踏まえて話したり、表現の特徴を捉えたりする。
- 書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く。
- 文脈に即して、漢字を正しく書いたり読んだりする。
- 表現の技法や単語の類別について正しく理解する。
- 複数の資料から適切な情報を得て、事実や事柄が明確に伝わるように書く。

### 【数学】

- 正の数と負の数の計算や一次式の計算ができる。
- 回転によって構成される空間図形の形を理解したり、与えられた投影図から空間図形を読み取ったりすることができる。
- 同位角や関数の意味を理解している。
- 数量の関係を文字式に表すことができる。
- 事象の式の意味に即して解釈したり、資料の傾向を的確に捉えたりして、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる。

### 【中学校理科】

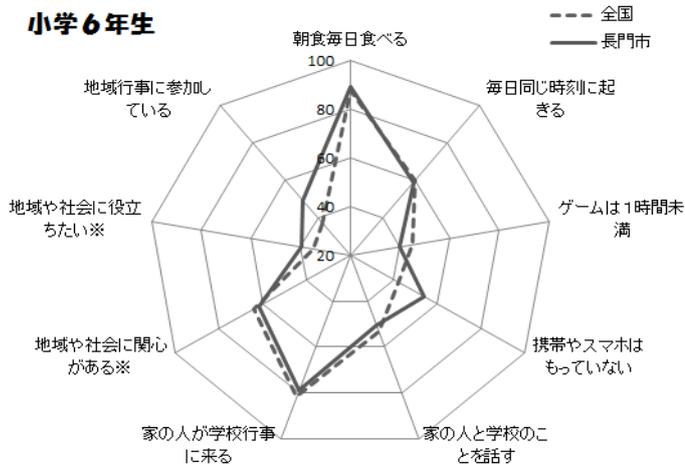
- 物質を化学式で表したり、天気記号から風力を読み取ったりすることができる。
- グラフを分析して解釈したり、デンプンが最終的に分解されてできる物質の名称を正しく表したりすることができる。
- 実験の結果を分析して解釈して規則性を指摘したり、日常の場面において音の波形の特徴を指摘したりすることができる。
- 他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な考察を記述することができる。
- 音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験や一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験などを計画することができる。



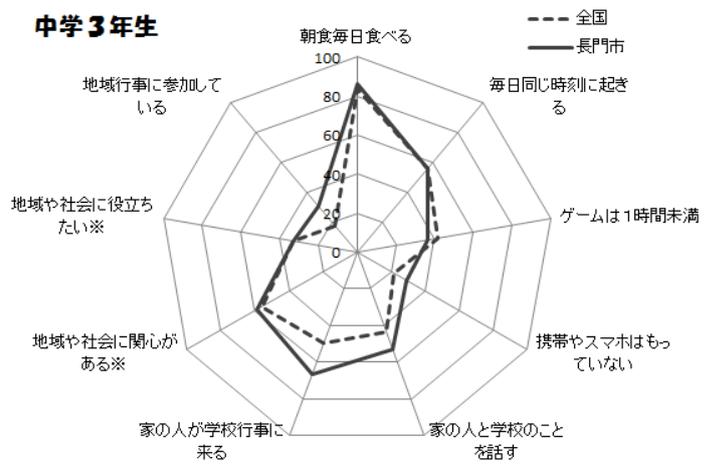
## 2 児童・生徒質問紙の回答結果

### (1) 家庭や地域での生活

#### 小学6年生



#### 中学3年生



#### 【小学校】

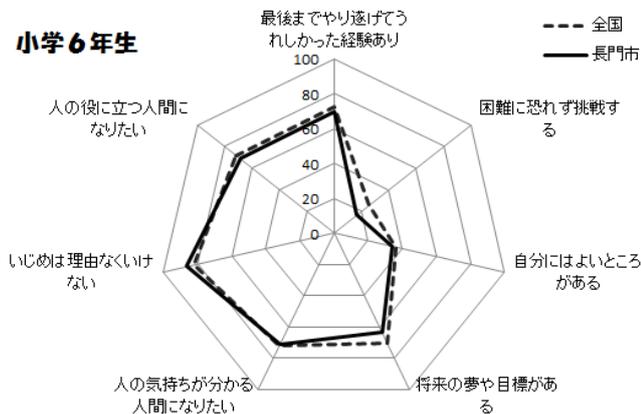
- 地域行事には参加している児童が多い反面、地域への関心が低い。
- ネットの時間が長い、就寝時間が定まっていない児童が比較的多い。
- 家族との関わりが少なく感じている児童が比較的多い。

#### 【中学校】

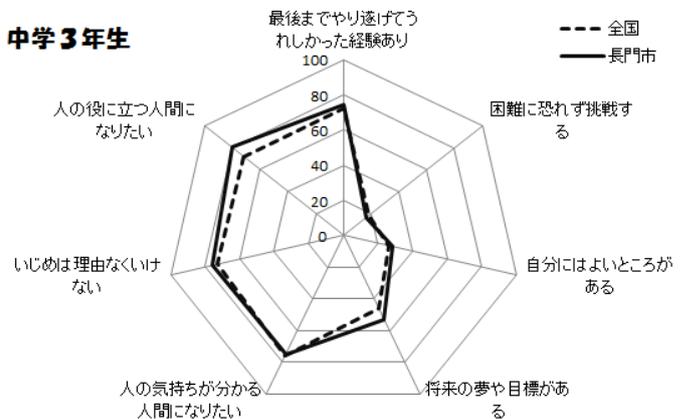
- ◇地域行事によく参加しており、関心も高い。
- ◇スマホや携帯の所持率は低いが、毎日2時間以上ネットをしている生徒が約40%。
- ◇家族との関わりが多いと感じている生徒が比較的多い。

### (2) 意識や経験

#### 小学6年生



#### 中学3年生



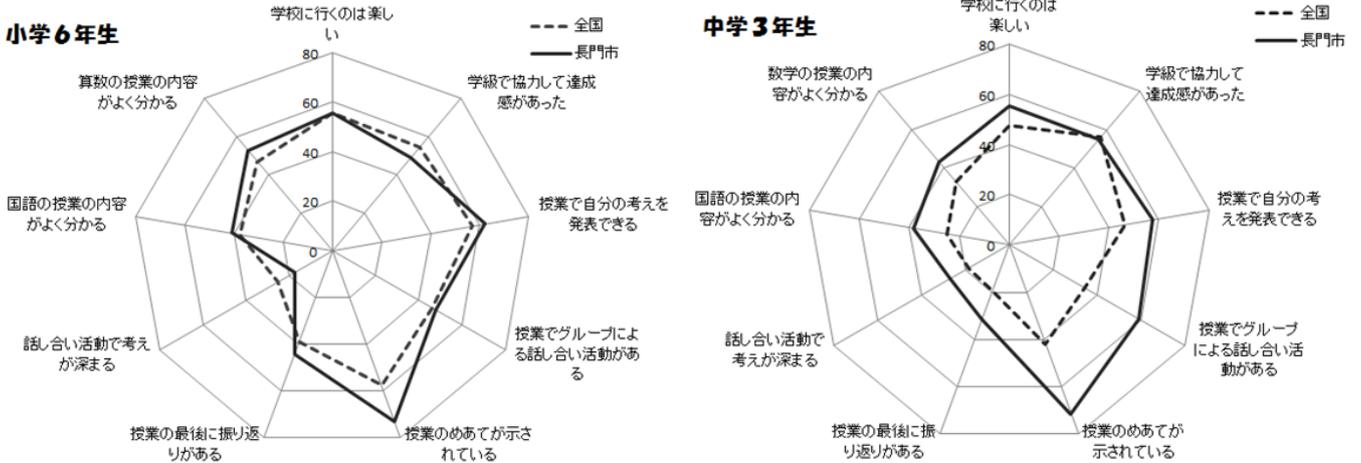
#### 【小学校】

- いじめについての理解ができています。
- 「困難への挑戦心」「自己肯定感」は、2年続けて課題になっている。
- 「人の気持ちがわかる」「人の役に立ちたい」「将来の夢や目標がある」児童の育成に力を入れる必要がある。

#### 【中学校】

- 「いじめについて理解している」「人の役に立ちたい」生徒が比較的多い。
- 小学校と同様に「困難への挑戦心」については、2年続けて大きな課題がある。達成感を実感できる指導が必要。

### (3) 学校生活や授業への満足度等



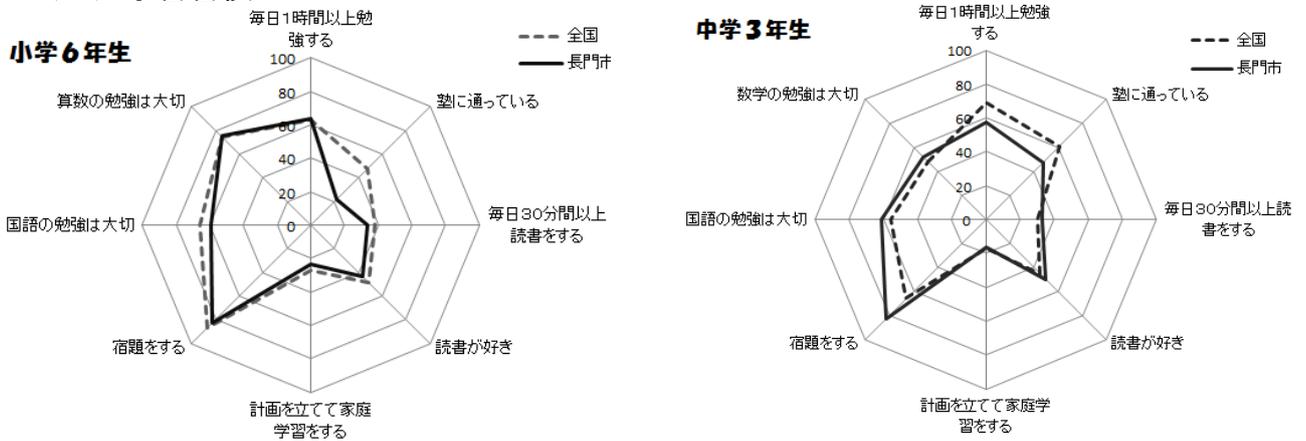
#### 【小学校】

- めあての提示や振り返りがあることで授業が分かりやすいと捉えている児童が多い。
- 話し合い活動はあるが、考えが深められるような手だてが不足している。

#### 【中学校】

- 授業でのめあての提示や振り返り、グループ学習の取組が改善されたので、授業の満足度が高くなっている。
- 学校生活を楽しいと感じている生徒が多い。
- 学級活動を通して達成感や所属感が実感できる時間の確保と内容の充実が課題。

### (4) 学習習慣



#### 【小学校】

- 学習意欲がやや低く、家庭で宿題以外の勉強をしていない児童が多い。
- 読書への意欲も低く、読書時間も少ない。
- 通塾率が全国平均の半分以下である。

#### 【中学校】

- 学習や読書への意欲が比較的高い。
- 2年連続して家庭学習の質・量ともに課題がある。

### 3 今後の取組

#### (1) 学校の組織的な取組の推進

- 学校全体で成果と課題を共有し、管理職を中心に組織的な動きをつくり、全校体制で学力向上を推進する。
- 市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、全小・中学校での取組を検討し、各校のプランの見直し・改善を図る。
- みすゞ学園ごとに1名ほど先進校視察を行い、成果を生かした授業をみすゞ学園ごとに行い、市教委主催の研修会で市内の学校に実践を広めるとともに、小・中が連携をしながら学力向上を推進する。
- 学校運営協議会で自校の結果の概要と今後の取組について確実に説明し、改善策を検討するとともに家庭や地域との連携を図り、地域とともに学力向上に取り組む。

#### (2) 指導方法の工夫改善

- 各校に長門市がめざす「わかる・できる」授業像を明確に示し、校長会や研修会を通じて市内全教員に共通理解を図る。
- 「授業改善リーダー育成研修会」を開催し、各校に授業改善の中心となる人材育成を行う。
- 指導主事の地区担当や外部講師による効果的な指導方法の普及を図る。
- 国語科の基礎基本の定着及び算数科や理科で「理由やわけを書く」指導の充実に重点を置き、指導方法の工夫改善を推進する。

#### (3) 学習環境の整備

- みすゞ学園ごとに、学力向上推進リーダー・授業改善リーダー、教育力向上指導員等が中心となり、小学校と中学校が連携した研修や交流を推進する。
- 子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制づくりの推進や幼保・小・中の連携を充実させるためのカリキュラムづくりを推進する。

#### (4) 学習習慣の確立

- 家庭との連携を推進し、「家庭学習」を充実させるための手だてを各校で検討し学習習慣の定着を図る。
- 県が作成した問題を活用したり、良問に数多く取り組ませたりする等、家庭学習の充実を図る。

## 参考 国及び山口県の調査結果

	小学校平均正答率			中学校平均正答率	
	山口県	全国		山口県	全国
国語A	72.1	70.0	国語A	76.4	75.8
国語B	67.5	65.4	国語B	66.3	65.8
算数A	77.1	75.2	数学A	65.3	64.4
算数B	46.4	45.0	数学B	42.4	41.6
理科	62.7	60.8	理科	53.0	53.0

- 調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。
- ・[国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」](#)
  - ・[山口県教育委員会 義務教育課 「全国学力・学習状況調査」](#)